

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年2月7日				
どんぐりのいえ						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		広い敷地を活かし、ゆとりある空間で定員内での支援を。行っています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		基準を満たし適切であると考えます。	もう一人加配がいるとさらに厚い体制を整えることができる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		視覚構造化を取り入れ、特性に応じた分かりやすい環境整備に努めています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		毎日清掃を行い、活動ごとに動線を分け、集中できる空間を作っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		クールダウン用のスペースを確保し、必要な時にすぐ利用できる環境である。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3		毎日の終礼でヒヤリハットや改善点を共有し、翌日の支援に活かしています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		アンケート結果を分析し、送迎時の対話からも要望を汲み取っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		定期的な会議で意見交換を行い、職員全員が発言しやすい雰囲気を作っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		第三者評価の導入を検討し、客観的な視点での質向上を目指したいです。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		外部研修への参加を推奨し、伝達研修を通じて職員全体のスキル向上を図っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		5領域に基づく支援プログラムをHP等で公表し、内容を可視化している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		5領域の視点で行動観察とアセスメントを行い、客観的な分析に基づき計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		児発管だけでなく全職員を交えて検討し、本人の最善の利益を追求しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		全職員が計画内容を把握し、一貫した対応ができるよう情報を共有しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		日々の記録に加え、定期的なアセスメントシートで見直しを行っています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		ガイドラインの5領域を網羅した目標設定を行い、具体的な支援に落とし込んでいます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		全職員でアイデアを出し合い、多角的な視点でプログラムを立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		季節行事や子どもの興味に合わせ、マンネリ化しない活動を提供しています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		個別課題と集団遊び（リトミック等）をバランスよく組み込んでいます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		支援前に必ずミーティングを行い、役割分担と個別の配慮事項を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		支援後の振り返りで、良かった点や課題を共有し記録に残しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		支援記録をデジタル化し、写真も活用して詳細な検証と共有を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		半年ごとの見直しに加え、状況変化に応じて柔軟に計画を変更しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	3		創作、運動、学習、交流を組み合わせ、バランスの良い活動を提供しています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		遊びや活動を選択できる場面を作り、自己決定の機会を保障しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		担当者会議には必ず出席し、本人の様子を詳細に伝え連携を図っています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		医療機関や学校との連絡体制を整え、緊急時も対応できるよう努めています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		学校行事を把握し、下校時刻の変更や宿題の内容等で密に連携しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3			就学前の機関との引き継ぎ情報の活用をさらに強化する必要がと考えています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3			卒業後の進路に向け、移行支援計画の充実と事業所見学等の実施に努めていく必要があると考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3			地域の基幹センターからの助言を積極的に求め、さらに専門性を高めていく必要があると考えています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3			地域交流イベント等を企画し、他児童との関わりを増やしていく必要があると考えています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3			積極的に自立支援協議会へ参加しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			送迎時の対話を重視し、日々の様子や成長を細やかに共有しています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3			保護者向け交流会や勉強会の開催を検討し、家庭での関わり方を支援できればと考えています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			重要事項説明書を用い、契約時に丁寧な説明と同意確認を行っています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			本人と保護者の意向を最優先し、ニーズに沿った計画作成を心がけています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3			計画書の手交時に内容を詳細に説明し、納得いただいた上で同意を得ています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			いつでも相談できる体制を整え、必要な助言や機関紹介を行っています。

保 護 者 へ の 説 明 等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3		保護者会や茶話会を企画し、親同士の交流の場を提供していきたいと考えています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	苦情受付窓口を掲示し、相談しやすい環境を整備しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	活動日誌や写真・お便りで日々の様子を発信し、事業所の透明性を高めています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	個人情報管理規定に基づき、書類の管理や写真の取り扱いを徹底しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	視覚支援や筆談など、障害特性に合わせた意思疎通の工夫をしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3		地域行事への参加や施設開放を行い、地域に開かれた運営を目指していきたいと考えています。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	各種マニュアルを整備し、全職員が閲覧できる場所に常備しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	BCPを策定し、定期的に異なる想定での避難訓練を実施・記録しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	利用開始時に健康状態を確認し、服薬や発作時の対応を共有しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	アレルギー一覧表を作成し、誤食防止のためのダブルチェックを徹底しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	安全計画に基づき、定期的な設備点検と危険箇所の改善を行っています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	訓練の様子などは、活動日誌や写真で保護者に周知しています。	安全計画の内容を、お便り等で保護者に周知するよう行っていきたいと考えてます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	ヒヤリハット報告を義務化し、要因分析と対策を全員で共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	虐待防止研修を定期開催し、権利擁護の意識を常に高く持つよう心がけています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	身体拘束適正化検討委員会を設置し、廃止に向けた意識啓発を行っています。		